

◆受講料：2,000円

東日本大震災被災地沿岸部市町村(下記記載)の学童保育指導員の受講料は、全国各地の学童保育関係者からの「東日本大震災学童保育支援義援金」にて援助しますので無料となります。
対象市町村の方でも、援助を必要とされない方には、受講料のお支払いをお願い致します。

青森県：八戸市

岩手県：宮古市・久慈市・大船渡市・陸前高田市・釜石市・岩泉町・洋野町・山田町・大槌町・野田村・田野畑村・普代村

宮城県：気仙沼市・南三陸町・女川町・石巻市・東松島市・松島町・塩竈市・七ヶ浜町・利府町・多賀城市・仙台市・名取市・岩沼市・亘理町・山元町

福島県：いわき市・田村市・南相馬市・相馬市・浪江町・新地町・富岡町・大熊町・楢葉町・双葉町・広野町

◆申込み方法：11月8日(金)締切 それ以降は当日受付

受講料(2,000円)とお弁当代(800円・必要な方のみ)を下記の口座に送金し、その控えのコピーと参加申込書を郵送またはFAXで送信してください。

*午後の講座は定員があり、先着順となります。第3希望までご記入ください。

*当日参加も可能ですが、ご希望の講座を受講できない場合があります。

*お弁当代と保育は事前申し込みのみです。近隣にコンビニや飲食店はありません。

申込みキャンセル：11月15日(金)まで。以降のキャンセルには、返金できません。



◆申込み先：宮城県学童保育緊急支援プロジェクト

〒983-0851 仙台市宮城野区榴ヶ岡5番地 みやぎNPOプラザNo.17

Fax：022-256-0533 Tel：090-3642-4327 (申込みに関する連絡先)

Mail：miyagi_gakudou0311@yahoo.co.jp

◆送金先：

ゆうちょ銀行記号：18140 番号：19587641 全国学童保育指導員学校東北会場準備会

他の金融機関から振り込む場合は、店名：一八一(イチハチイチ) 店番：818 口座番号：普通 1958764

◆保育室：3歳以上。事前申込みのみ。当日、保険料とおやつ代の実費をいただきます。

◆受講票：受付後受講票を送ります。当日ご持参ください。(受講票は領収書となっています)

◆問合せ先：全国学童保育連絡協議会：03-3813-0477

【当日のみ】090-1930-4908 (宮城県学童保育緊急支援プロジェクト)

◆会場：宮城学院女子大学 仙台市青葉区桜ヶ丘9丁目1-1

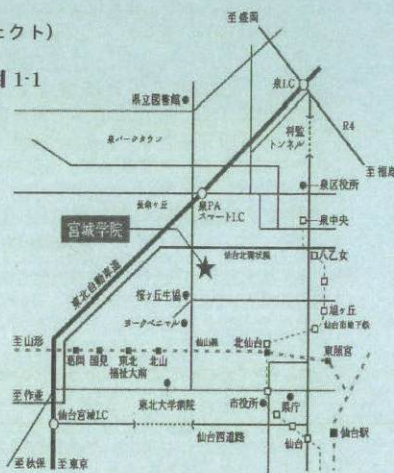
【車でご来場の方】できるだけ乗り合わせてお出でください。

構内では、大学の守衛の指示に従ってください。

【公共交通機関ご利用の方】仙台駅前バスプールより乗車

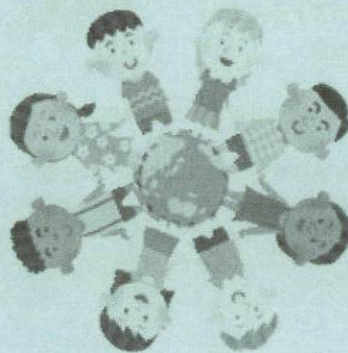
宮城交通バス：「宮城学院前」下車 (バス代340円)

発時刻	着時刻	のりば	経由	行き先
8:45	9:15	2	県庁市役所	宮城大学
8:55	9:21	2	北山トンネル桜ヶ丘	地下鉄泉中央駅
9:05	9:28	2	上杉通り	宮城大学
9:15	9:46	3	県庁市役所	宮城学院前
9:25	9:47	2	県庁市役所北山トンネル	泉アウトレット
9:35	9:59	3	上杉通り	宮城学院前



第38回 全国学童保育指導員学校

東北会場 in 宮城



と き：2013年11月23日(祝)

ところ：宮城学院女子大学

一昨年の東日本大震災で大きな被害を受けた東北各地では、震災の経験を通して子どもたちにとっていかに学童保育の存在が大切であるかが再認識されています。また、家庭や地域が不安定な状況の中で、子どもたちが安定した生活を取り戻すためには、これまで学童保育関係者が積み上げてきた、打ち合わせに始まる日々の指導員の仕事の在り様、生活づくり、子どもたちを深く理解する視点、保護者や地域学校との関係づくりなどがいかに重要かが、見直されています。

学童保育は、働きながら子育てするうえでなくてはならない施設です。

いま、学童保育数も入所児童数も増えています。学童保育で働く指導員も増えています。どのように子どもたちの生活をつくるのか、子どもたちの願いと状況をふまえて、子どもたちが安全でいきいきとした生活が送れるよう、学童保育と指導員の仕事・役割について、学び交流しましょう。

学童保育の拡充・内容向上がすすむように、保護者や行政の方も一緒に学びませんか。ぜひお問い合わせでご参加くださるようお願いいたします。

主催 全国学童保育連絡協議会

岩手県学童保育連絡協議会・山形県学童保育連絡協議会
福島県学童クラブ連絡協議会・仙台市学童保育連絡協議会

後援

宮城県、仙台市、青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県 ほか
河北新報社

◆日程	9:30	10:00	12:00	13:00	16:00
	受付	全体会	昼食	講座	

◆全体会 10:00~12:00

● 基調報告 全国学童保育連絡協議会

● 全体講義

「悩みあい、語りあい、祈る思いで未来をつむぐ
— 学童保育というたからもの」

講師・庄井良信（北海道教育大学大学院教授）



宮城県花 朝顔

1960年、北海道美幌町に生まれる。広島大学大学院教育学研究科博士課程、広島大学教育学部助手、県立広島女子大学・生活科学部・人間福祉学科助教授、フィンランド・ヘルシンキ大学在外研究員を経て、現在、北海道教育大学大学院教授、日本教育学会理事。専門分野は臨床教育学。さまざまな悩みや困難を抱えた家庭・地域・学校教育の現場と手をつなぎながら、教育相談活動に参画している。

著書に『癒しと励ましの臨床教育学』、『揺れる子どもの心象風景』ほか多数。

第38回全国学童保育指導員学校・東北会場 参加申込書

氏名	ふりがな	女 男	指導員 () 年目 保護者・その他 ()		
所属クラブ	クラブ名	受講票送り先	自宅・職場・その他()		
	県・市町村名		〒		
	電話番号		電話番号		
講座	第1希望 講座	第2希望 講座	第3希望 講座	弁 当	要 (個) ・不要
保 育	保育を必要とする方は、お子さんについてご記入ください。				
	() 年生	() 歳 (男・女)	(名前)	(愛称)	()
	() 年生	() 歳 (男・女)	(名前)	(愛称)	()
	特記事項				

★ 参加費 2,000円 弁当代 800円 合計 () 円を添えて申し込みます。

★ 被災地沿岸市町からの参加のため 申込書のみ 弁当代 800円 を添えて申し込みます。

送付先：宮城県学童保育緊急支援プロジェクト Fax：022-256-0533

ご記入いただいた情報はこの集会に関する業務のほか、各種受講案内にのみ利用させていただきます。

全国学童保育連絡協議会の個人情報保護方針に基づき、本人の許可なく第三者への提供は行いません。

◆午後の講座 13:00~16:00 (☆印は、東日本大震災に関連する内容を含む)

講座1	学童保育とは—学童保育の役割、指導員の仕事	河野伸枝 (全国学童保育連絡協議会)
	働く親の切実な願いで生まれた学童保育。子どもたちが学童保育を、「家庭に代わる毎日の生活の場」と実感できることが基本です。子どもにとって学童保育はどういう施設でなければならないのか、どのような学童保育の生活をつくってあげればよいのか。放課後子ども教室などで行なわれる「全児童対策事業」との違いも含めて、学童保育指導員の仕事に関わる基本を学びます。	
講座2	学童保育の生活づくりで大切にしたいこと	亀卦川 茂 (全国学童保育連絡協議会)
	学童保育は子どもたちに安心感のある毎日の生活を保障することが目的の施設です。学童保育の子どもたちに対する理解を深めながら、一人ひとりの子どもと指導員との信頼関係、子どもどうしの毎日の生活で培われる関係づくり、保護者との連携を密にした生活づくりの基本を学びます。	
講座3	保護者に子どもの生活を伝え、ともに育てる	岡村美由紀 (山形県天童市指導員)
	学童保育でのわが子の日々の様子を知り、育っている実感をもつことで、保護者は安心して働き続けることができます。子育てに悩んだり困難を抱えていたりする家庭を援助し励ましていくことは、指導員の大事な仕事です。保護者とともに育てていくために、伝え合うことの重要性を知り、何を、どのように伝え合うのかを学びます。	
講座4	障害児とともに育ち合うための生活づくり—発達障害児の理解と援助も含めて	松浦 淳 (青森中央短期大学)
	障害のある子ども、特にLD・ADHD・高機能自閉症など発達障害児の学童保育への入所が増えています。落ち着かない、言葉の前に手が出てしまうなど「ちょっと気になる子」も年々増えています。障害についての理解を深め、受け入れにあたっての準備や課題、ともに育ち合える学童保育の生活づくりや指導員の関わり方を学びます。	
講座5	学童保育の生活づくりとおやつ	平本福子 (宮城学院女子大学)
	子どもたちにとって、毎日の生活の中での楽しみの一つがおやつです。しかし、アレルギーや衛生面の他、学校の授業時間が長くなったことによるおやつの時間の設定など、おやつを取り巻く課題は増える一方です。子どもの毎日の生活になぜおやつが必要なのか、学童保育のおやつの時間は子どもの育ちにどのような意味をもつのか、食教育の専門家から学びます。	
講座6	学童保育の生活とあそび	山川美江子 (山形市指導員)
	子どもにとってあそびは、何かのためにするのではなく、それ自体が目的です。子どもにとってあそびとは何か、学童保育の生活の中でのあそびの位置付け、あそびにおける指導員の関わりや働きかけ、配慮の仕方などの基本を学びます。	
講座7	子どもの心・育ちを深くとらえる	足立智昭 (宮城学院女子大学)
	子どもたちをめぐる状況が厳しくなる中、子どもたちはいらいらや不安を募らせています。ともすれば私たちは表に現れる言動にとらわれ、問題行動と否定的にとらえがちです。その子はその行動で今何を伝えようとしているのかを考え、子どもの願いや心に寄り添い、理解しようとする大切さを学びます。	
講座8	学童保育と指導員をめぐる情勢と課題	真田 祐 (全国学童保育連絡協議会)
	学童保育の量的・質的な拡充が求められています。国は、学童保育の利用児童を2017年度末までに129万人にする目標を立て、さらに基準を決める児童福祉法改正なども行ないました。指導員の安定的確保、仕事の確立、配置・体制の整備、待遇の改善などの課題に、国や市町村はどう向かうべきなのか。私たちの課題も含めて学びます。	
講座9【特別講座】	震災後のこどものストレスマネジメントと指導員のメンタルケア ☆	佐藤秀明 (NPO ここねと発達支援センター緊急子どもサポートチーム代表)
	東日本大震災直後から宮城県内沿岸被災地に入り、子どもの心に寄り添う活動を続けている講師から、抱えきれないほどの大きな体験をした子どもたちにしばしばみられる行動や、そうした子どもたちに対して心がけておくべきことは何か、してはいけないことは何かなどを学びます。同時に、支援する側の指導員のメンタルケアについても、学んでいきます。	
講座10【特設交流】	子どもの安全を考える 進行役・嘉村祐之 (全国学童保育連絡協議会)	
	毎日を安全に過ごすことは、生活づくりの基本です。学童保育の生活における「子どもにとっての安全」をどう守るか、基本的なことをあらためて確かめたいです。また東日本大震災後に各地で取り組まれた防災などの取り組みも交流し、防災に関する今後の課題は何か、学童保育における子どもの安全を守るために大切にしたい基本的な視点を、参加者の皆さんと学び合い、ともに考える特設交流会です。	